

ホーム名：グループホーム東神田の里					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議でユニット内の方針を話し合い職員が共有しながら実践に繋げている。	法人組織全体の理念は事業所玄関に掲示されている。各フロアには職員の支援標語が大きな文字で貼り出されている。	職員の入居者に対する思いが家族にも、外来者にも伝わるものとしてアピールし誇りをもって支援されることを願う。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、老人会などは自治会の掲示板を利用して頂き施設での行事のお知らせをしている。町内会に加入し、地域の行事や近くの小学校とも交流をさせて頂いている。	入居者と共に、自治会が主催する行事への参加で地域交流が進められている。	この2年間で地域との連携が進み、自治会員として努力することで事業所の存在が浸透されてきている。入居者が自分の住む地域としての関わりが続くよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の自治会役員の方に参加していただき認知症の方の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自治会の会長や副会長、ご家族、入居者、地域包括支援センターの方々に出席頂いている。会議内には、地域の方に貢献ができるように、介護に関する相談の受付をさせて頂く旨を伝えている。また会議終了後にホームの見学をお願いしているが時間の都合により実施出来ていない。	2ヶ月に1回、事業所外にて会議がもたれている。参加者の発言が記録されている。会議の中でも、入居者がお話できるように支援している。	入居者から、生活上での楽しいこと、わかりにくい事等を把握しながら、地域の人々に見守られていることを伝え、サービスのあり方等、評価に繋がりたい。会議の内容を家族、全職員にも開示されたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	寝屋川市ケースワーカーには、現場の実情を積極的に伝えることは継続を行っている。入院、退院はもちろんの事、他院への通院等の連絡も随時連絡をとらせて頂いています。	運営推進会議、議事録は提出している。担当職員の会議参加・事業所訪問はない。	入居者の高齢化等で看取りに関すること、医療との連携など情報収集も含め協議の機会を作られてはいかがでしょうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の開錠はまだ実現出来ない。身体拘束しないケアを会議の中で話し合いを行っている。言葉の拘束も有る事を説明している。	各フロア入口は施錠されている。一部の居室にセンサーマットが置かれている。職員の声掛け、言葉の使い方入居者の行動を制限することが無いよう気をつけている。	車椅子の入居者が食事の時にはテーブル椅子に移乗する姿があった。少しでも身体を動かす機会を増やすことで身体機能を活発にする支援に期待する。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット内の虐待防止については、入浴時やトイレ介助時に体のチェックを行うように努めている。職員に年間研修計画での研修参加を促し、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の成年後見人の方と連絡を取りながら不明な点はその都度確認する事で制度への理解を深め知識を得る様に努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時、また、改定等があった場合は、入居者やご家族等に十分な説明を行い、同意書にサインをしていただき理解していただいている。また、疑問点がある場合は、後日再度説明をさせていただくこともある。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニット入口には意見箱を設置させて頂きご意見を聞かせて頂く様にしている。入居者やご家族より意見やご要望、苦情がある場合は苦情担当者が話を聞かせて頂く。解決責任者が解決出来ない場合には第三者委員会へ報告を行い話し合いの結果を苦情申立人への返答を行います。また返答内容については書面にて施設内に貼り出します。</p>	<p>入居者に対する担当職員を決め日常的に把握し共有に努めている。家族の来訪時に報告し、要望等を聞かせていただくようにしている。ホームだより（あかしや便り・けやき通信）を発行し入居者の様子が伝えられるようにしている。</p>	<p>来訪の少ない家族に対しても、定期的な診療情報を報告し、入居者の日常の様子を担当者から伝えることで、家族の喜びになるよう充実されたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニット会議にて職員間で話し合いを行いその内容をリーダー会議に提案し結果を反映出来る様に取り組んでいる。</p>	<p>管理者はそれぞれの会議で提案、意見が出されて集約されることを願っている。</p>	<p>一人ひとりの入居者の思いを代弁できる介護者職員を応援するために、一人ひとりの職員との面談機会等を設け、活力を引き出されたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の要望には出来る限り配慮を行ったシフトを作成している。職員が向上心を持って働ける様年間研修計画を作成し職員が資格手当などを取れる様に研修への参加を促しスキルアップ出来る様に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間研修計画での研修へは、出来る限り出席している。また、外部研修への参加も積極的におこなっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年間研修計画を通して勉強会を実施し、同業者と交流を深める機会をつくり、サービスの質を向上させていく取組みを行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には必ず初回面談を行っている。面談時には御本人から要望や不安な事を聞かせて頂き説明し安心して頂いている。御本人が安心出来ていない場合は御本人様とご家族様に説明して安心して頂く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には不安な事を聞き取る様にしている。不安が残っている時は訪問または来所して頂き説明を行って安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者がリハビリを希望され歩行不安定な為に直ぐに必要としている支援を見極め訪問マッサージの利用の検討を行い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意な事を聞いて出来る限り好きな事をして頂いている。編み物では上手い方に編み方を教わり、手作り食の際には味付けや料理方法を聞く事で職員と入居者が関係を築いている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院等に付き添って頂く事でご本人とご家族とが話し出来て家族との関係性を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方より贈り物や、お葉書を頂いた際にはお礼状や手紙の返事などを書いて頂き、知人の方より、入居者が好きな果物を送って来て頂き、お礼状を郵送させて頂くなど関係性が途切れない様に努めている。	家族の同伴でこれまでの美容室に行かれたり、職員とお墓参りする等、入居者の思いを把握することで支援に繋いでいる。	入居者に寄り添って「少しでも喜んでもらいたい」の気持ちが伝わる支援が増えることを願う。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話しが好きな方同志が、隣になるように座る席を配置したり、孤立されている様子が見られた場合職員が隣に座り傾聴や声掛けを行い、利用者同士の関わりがもてる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様に対しては他事業所への情報提供を行っている。またご家族様より相談を受けた場合はお話しを聞かせて頂き支援に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で思いを聞く事。入居者と外出した際に普段聞けない希望、思いを聞いて申し送りノート、口頭にてスタッフに伝えることにより、本人の希望に添える様に支援している。	入居者の思いを一つ一つ支援する中で、生活全体で把握できるよう意識し、職員間の共有化に努め支援できるようにしている。	入居者の一つ一つの思いが職員と共同で実現されることを家族と共に実感できる支援に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の時点で出来るだけ詳細に聞く様にしています。また出来る限りご家族とコミュニケーションを図り生活環境を整える様にしている。関係者の来所の際にはお話を聞かせて頂き情報の収容を行っている。知りえた情報は申し送りノート、口答にて共有出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活記録をみて生活リズムを把握している。申し送りノートなどで内容を確認して心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は3ヶ月に一度モニタリング、アセスメントを行い作成している。必要時には、サービス担当者会議とアセスメントを行い、介護計画書の作成を行っている。日々の生活の中で変化があれば、その都度、計画見直しの変更を行っている。	介護計画はユニット会議、リーダー会議に出されている担当者の気づきを含め確認して作成に当たっている。	計画に入居者自身の思いが反映され目標として具体的な行動に繋がるよう支援されたい。心が動けば身体が動くことを笑顔で確認できるよう願う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノートを利用して入居者の情報を共有している。サービス担当者会議を開き会議で話し合いを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージの必要な方にはマッサージを取り入れ本人のニーズに対して柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の方に協力して頂き、学校行事へ参加させて頂いている。また、ボランティアを活用できるように、社会福祉協議会への申し込みを行い、入居者が安全で豊かな楽しい暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時にご本人、ご家族にかかりつけ医を確認させて頂いています。出来る限り受診の支援を行う事を、ご本人、ご家族に説明させて頂き、適切な医療を受けて頂ける様に支援しています。	法人母体である寝屋川南病院が協力医療機関となっており、現在入居者全員のかかりつけ医となっている。一月2回の往診（全員）、毎週の訪問看護、また協力歯科による往診（希望者）がある。訪問マッサージを利用する人もいる。	薬の変更や受診結果の報告などはその都度速やかに報告をし、家族の信頼に繋がりたい。今年6月にはかかりつけ薬局が変更されるとの事。運営推進会議や通信を通して報告をされたい。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常の関わりの中で気づいた事を入居者一括管理シートに記入を行い、何時どのような状態であったか職員が把握して、医師や訪問看護師に確実に伝達が出来る様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院への入退院時には、必ず職員が付き添いを行い病院へ情報を伝達する様にしている。入院後は介護サマリーを直ぐ提出させて頂いている。病院関係者との情報交換は病院訪問時や電話等で行い、カンファレンスにも参加させて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、家族の意向をできる限り添えるように努めている。家族の意思表示をもとに、終末期に向けたサービス内容の変更を行い、事業所で説明して方針の決定を行い支援させて頂く様に取り組んでいる。	現在、重篤な状態になった場合の措置や終末期のあり方についてより具体的な意向を伺う書面を作成中である。ホームでの看取りの希望もある。	入居者や家族の思いを尊重し、関係者が共有しながらその思いに応えられるよう支援に取り組まれる事を希望する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作成して直ぐに職員が対応出来る様にしている。また、実践出来る様に研修会を実施して職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を通して、昼夜の避難誘導や、災害時の避難経路を災害マップで避難場所の確認を行い、職員で避難経路を実際に移動しながら話し合っている。	年2回、総合訓練を行っている。直近の訓練では、夜間巡回中に1階台所からの出火を想定して、隣接地特養当直者も加わり消火・誘導の訓練を行った。階段での避難の為に「簡易担架」を購入済みである。	突発的な災害に対して落ち着いて対処できるよう、日頃の訓練を十分に重ねられたい。「入居者一覧表（点呼リスト）」もすぐ持ち出せる場所に整備されたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に心がけている。入居者に対しての声掛け等は、他者に気付かれないよう配慮を行っています。	“自分がされて、また言われて恥ずかしいと思う事をしない”ように、と指導している。トイレ誘導時には特に気を付けている。	入居者を人生の先輩また年長者として敬う気持ちを、今後も支援に結び付けていって欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望出来る様に声掛けを行い、その日の着る服や飲み物、レクリエーションの参加等の選択は必ず言っている。また自分で決められない方に対しては、選択出来る様に促して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて、起きて頂いている。朝起きるのが遅い方には、ゆっくりと休んで頂き入居者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容が出来る方に対しては、優しく声を掛けてゆっくりとおしゃれが出来る様にしている。またお化粧品やマニキュアも希望時には、支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は、食材を業者に発注して湯煎後に盛り付けして提供を行っているが、月に2回程度は手作り食を実施し、職員と入居者が準備、片づけを一緒に行っている。食事のメニューについては、出来る限り希望に添える様に支援している。	月に1～2回の「手作り食」の日は、好みのメニューを入居者と共に手作りし、一緒に食して楽しんでいる。今迄に、具沢山のカレーライス、生姜焼き、ミックスサンド等がテーブル上がった。他に行事食も楽しみとなっている。外食に出掛ける事もある。	今後は手作りの日を増やしていきたいとの考えである。入居者には持てる力を十分に発揮して頂けるよう、取り組みに期待する。食事の前には順番でトイレを済ませ、ゆっくりと落ち着いて食事に専念できるよう気を配られたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分摂取量がすぐに把握できるように水分排泄チェック表に記録している。水分量が不足している方は、飲み物の味を変えたり職員が細目に促しを行って水分量を確保している。また、どうしても食事量が摂れない方には、訪問診療時に主治医に相談し、処方していただいたエンシュワを服用することで栄養のバランスを保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者の自立度に合わせた介助を行っている。介助が必要な方には、職員が付き添い口腔内ケアを実施している。また、週1度定期的に訪問歯科に往診して頂き、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	水分、排泄チェック表を利用して、入居者の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄や時間誘導による声掛けを行い入居者の力に合わせた排泄を促しています。また、尿意、便意のある方には、トイレでの介助を行い、自立に向けた支援を行っています。	「排泄チェック表」により声かけ、誘導を行なっている。パターンを把握し、失禁のない支援に努めている。ホットタオルが完備され、気持ちの良い、衛生にも配慮された支援がなされている。	声かけなしでひとりでトイレに行ける方も数名おられる。この状態が長く続くよう、支援に力を入れられたい。トイレへの誘導希望があった時には、間を置かずすぐ対応するように心掛けられたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因は、運動不足、水分摂取量の不足と考えると、運動については、1日2回の体操を取り入れ水分不足については、入居者が好む飲み物を用意して摂取量の確保に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者のペースに合わせてゆっくりとした入浴に努めている。気分が乗らない時などは無理じいせず翌日などに変更したりしている。入浴して頂け無い方には清拭、足浴などを行っている。	ひとり週2回以上、午後からの入浴支援が行われている。入浴時には身体をよく観察し、怪我や傷等の有無を確認している。入浴剤、また5月には菖蒲を入れるなどして入浴を楽しむ演出をしている。湯の入れ替え、洗浄はその都度行っている。	「シャワーキャリー」も用意されている。入居者の状態に合わせた介護用具で、安全な入浴支援がなされるよう、今後も支援の継続を願う。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の入居者の状態に応じて対応を行っている。生活習慣で遅い時間に休まれる方には、遅い時間に休んで頂いています。不穏状態になっている方には、温かいお茶を飲んで頂き傾聴して休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の個別ファイルを職員全員が情報を共有出来る様にしています。特に服薬後の体調の変化については、入居者一括管理シートを利用して少しの変化でも記録して医師や訪問看護師に連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が張り合いを持って生活して頂ける様に、得意な事を聞いて日々過ごして頂いており、編み物や塗り絵、歌等で気分転換が出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には、出来る限り散歩をして頂ける様にしている。外出チェックシートを活用して、外出出来てない方には、本人に確認を行い散歩に促しているが、拒否される方も多くおられ、その際には、声掛けを何度も行い外出への支援に取り組んでいる。	「外出チェックシート」、「散歩シート」を活用し、外出支援に取り組んでいる。日頃は近隣の公園への散歩を、また車を使っての中遠出（奈良方面や淀川河川敷等）も楽しんでいる。	日頃の外出が困難な方には、1階のテラスを大いに活用して、外の空気に触れる機会を沢山作って頂きたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の重要性については、職員が理解しているが、ご家族より紛失の危険性がある為に、施設管理となっている。ただ、外出時の買い物の支援をさせて頂く時には、職員が付き添い、支払いをして頂く様に支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御家族から連絡があり、希望があれば電話に出て頂きお話を頂いている。また、ご友人から手紙やはがきが届いた場合は、お返事を書いて頂き、返信させて頂く支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、午前中に朝日が入ってくる為に眩しい時があり職員がカーテンで光の調整を行い入居者の不快を取り除いている。また、フロアには入居者と職員と一緒に作成した物を飾り付けて居心地良く過ごせる工夫を行っている。	1階・2階、それぞれに趣の異なる共用空間作りが出来ている。事務を執る場所で室温と湿度が管理され、快適さが保たれている。共用空間、居室とも平日は清掃専門職員が行っており、ワックス掛け、ガラス清掃は業者依頼している。	建物はまだ新しく、清潔に保たれている。光、音などに対しても職員の細かい配慮が感じられる。食卓を離れて寛げる場所があれば、と感じた。トイレ内の棚の整備が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間的に制限が有り、共用空間において一人で過ごして頂けるスペースは無いが、気の合う入居者同士楽しく過ごして頂ける様に座る位置に配慮を行い居場所の確保に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂き、自宅の様な雰囲気となる様に職員がお話を聞いて入居者と一緒に飾り付けを行っている。	各居室、それぞれの好みの部屋作りができています。すっきりとした部屋、生活感漂う部屋と、その人柄が感じられる部屋模様となっている。シーツは週1回、職員が取り換えている。	大切な私的空間である。ベッド上を含め、居心地良く過ごせるよう今後も支援の継続を願う。時計やカレンダーが無い部屋には、それらが認知症にとって有用な物であることを家族によく伝えられたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からない入居者もいる為、分かりやすく表示し、混乱が少なくなる様に工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない